

各位

会社名 宇部マテリアルズ株式会社
 代表者名 取締役社長 光井 一彦
 (コード番号 5390 東証第二部)
 問合せ先 管理部長 原 三千穂

三ヵ年経営計画(2005 - 2007年度)の策定

宇部マテリアルズ株式会社では、昨年度に作成した「2003 - 2004年度経営計画」を継承し、この度「2005 - 2007年度三ヵ年経営計画」を策定いたしました。これは、激変する事業環境の中で、ファイン関連事業を一層積極的に推進するとともに、基盤事業である、マグネシア事業及びカルシア事業の収益性をより高めて、高収益を安定的に確保できる企業体質を確立するものです。その概要は以下の通りです。

記

. 経営方針

1. 会社のあるべき姿

全てのステークホルダー(株主、顧客、サプライヤー、従業員、社会等)に対して常に信頼される会社

2. 経営目標

トリプル3の達成

2007年度末までに 売上高300億円以上
 経常利益30億円
 1株当たり株主資本300円

新規事業の売上が毎年30%以上伸びる会社

実質無借金 of 財務内容

東証1部指定

. 数値計画(当社単独)

[全社]

科目	単位	2005年度	2006年度	2007年度
売上高	百万円	31,000	32,900	34,800
営業利益	百万円	1,400	2,380	3,250
経常利益	百万円	1,390	2,370	3,240
当期純利益	百万円	760	1,300	1,780
借入金	百万円	2,830	2,060	1,060
売上高経常利益率	%	4.5	7.2	9.3
ROA(総資本当期純利益率)	%	2.2	3.7	5.0
ROE(株主資本当期純利益率)	%	3.5	5.7	7.4
D/Eレシオ	倍	0.13	0.09	0.04
1株当たり株主資本	円	275	286	300

[事業部売上高]

ファインマテリアル事業部	百万円	2,700	3,800	5,100
マグネシア関連事業部	百万円	11,400	11,600	11,800
カルシア関連事業部	百万円	16,900	17,500	17,900

. 全社基本戦略

1. 新規事業の拡大と既存事業の基盤強化

(1) ファインマテリアル事業

研究開発、市場開発強化により更なる事業拡大と収益性の向上を図り、自立した事業部の確立を目指す。

(2) マグネシア事業、カルシア事業

カルシア・マグネシア一貫生産体制の最大限の活用強化を図る。

原燃料アップに対処するコストダウン、不採算製品の撤退等を行い、収益性を向上させる。

全国展開を推進し、一層の基盤強化を図る。

付加価値の高い、新製品の販売、新規用途の開発を促進する。
物流効率化及び新運賃体系導入による物流コスト低減。

- (3) 収益改善プロジェクト
トリプル3達成のツールである収益改善プロジェクトを強力に推進し、コスト削減と増収を図る。
 - (4) 現行のマグネシアにカルシア、ファイン製品を加えた、全社的な海外戦略を展開する。(輸出、技術提携、事業提携、現地生産)
 - (5) UBEグループ及び各事業部間の連携を更に強化することによりシナジー効果の効用を推進する。(生産原料、営業活動等)
2. 時代を先取りする研究開発と技術革新
- (1) 電子材料用と食添用Mg・Caを中心とした新規製品の研究・開発を展開すると共に、宇部興産の研究開発部門との共同研究を積極的に推進し、他社より一歩先んじた高機能・高品質商品を開発する。
 - (2) 生産技術の革新を進める。コスト削減、自動化等のより効果的な生産プロセスを開発し、グローバル化に対応した競争力を確保する。
3. “元気で陽気に根気よくやる気に満ちた”四つの気で企業風土の醸成
- (1) 誇りと豊かな専門性を持って自己実現が図れる職場を構築する。
 - (2) 情報の共有化がなされ相互依存が図れる、開かれた組織文化を構築する。
 - (3) CSR(企業の社会的責任)、コンプライアンスを確立し、浸透させる。

事業部別戦略

1. ファインマテリアル事業部
“マグネシア、カルシアに次ぐ第三の柱となる製品の選定と展開”
PDP用気相法マグの拡販。
電子材料用ファインマテリアルの拡販と新製品の上市。
食品用ミネラルの製品開発と拡販。
家庭用品・化粧品の拡販と新製品の上市。
その他研究開発品の上市と拡販。
2. マグネシア関連事業部
マグネシア製品の新規需要開拓。
生産能力のデボトルネッキングによる向上。
既存製品のコストダウン。(生産効率化、物流効率化、OEM等)
環境改善材の拡販。
用途別水マグスラリーの棲み分け。
3. カルシア関連事業部
提携等による石灰製品の全国販売展開。
戦略製品(環境材関連製品)の拡販及び新規需要開拓。
安価な代替燃料の積極的導入及び原燃料管理強化による燃料コスト低減。
主要設備の効率的稼働による製造コスト低減。
産業廃棄物処理事業による利益への貢献。
業務外注化の拡大による人件費の低減。
4. 研究開発本部
ファインマテリアル事業部との連帯強化。
2007年度におけるファインマテリアル事業部売上目標の内、24億円を新規開発品として担当。
PDP関連素材、次世代積層セラミックコンデンサー関連素材に主力を置き、これを補強するものとして、その他電子材料周辺材料の展開にも注力。
食品材料とフィルター材料(モスハイジ)については、密接した技術支援を実施。
宇部興産・研究開発が開発した熱電発電モジュールの商品化着手。
5. 生産管理本部
Ca-Mg一貫生産の最適化によるドラスチックなコスト削減と産廃処理の事業化により、新たな利益を創出。
生産技術、品質保証、環境安全を担う全社のスタッフ部門としての機能を強化し、恒常的な利益体質作りを推進。
業務の集約による人材の効率的活用と技術の蓄積・伝承機能の具現化を推進。
環境マネジメントシステムに引続き、安全衛生マネジメントシステムを構築・運用し、環境安全の仕組み作りと統括体制の確立。

以上